

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
22321	公衆便所維持管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	2
53133	南クリーンセンター運営管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	3
53133	西クリーンセンター運営管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	4
53133	横谷埋立センター運営管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	5
53133	大西谷埋立センター運営管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	6
53133	中島リサイクルセンター運営管理事業	環境部	清掃施設課	シートA	7

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	施設整備担当	連絡先	948-6901				
	部長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	岡田 真規子	担当者名	主査	安倍 健太郎	技師	上田 純
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	施設整備担当	連絡先	948-6901				
	部長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	副主幹	岡田 真規子	担当者名	主査	安倍 健太郎	技師	上田 純

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	22321	公衆便所維持管理事業					事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託		
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】					笑顔プログラム	個別プログラム	-				
政策	安全に暮らせる環境をつくる						重点プロジェクト	-				
施策	良好な衛生環境の維持						主な取り組み	-				
主な取り組み	生活衛生の向上					市長公約						
取り組みの柱	生活衛生施設の衛生水準の維持・向上											
総合戦略	基本目標	-					取り組み	-				
	政策	-										
	施策	-										
総合計画の実施計画掲載有無(R元)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し							
根拠法令,条例,個別計画等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律										
事業の目的(どのような状態にするか)	当該が管理する市内14箇所に設置された公衆便所を衛生的に維持管理し、公衆衛生の保全及び市民の利便性の向上を図る。											
背景(どのような経緯で開始したか)	地元要望等によって設置。											
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<<対象>> ・市内14箇所の公衆便所 <<事業内容>> ・清掃業者等に委託料を支出し、日常清掃・維持管理業務及び浄化槽保守点検業務を実施する。また、破損や故障時には緊急修繕工事を実施する。											
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない			「有り」の場合、基準や金額等		「無し」の場合、その理由					
始期・終期(年度)	平成	2	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期					

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	H30年度		R元年度		R2年度	
				衛生費	項	清掃費	目	し尿処理費	
現計予算額(A)(単位:千円)						8,213		8,297	9,341
決算額(B)(単位:千円)						8,129		7,657	
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳			国支出金			0		0	0
			県支出金			0		0	0
			市債			0		0	0
			その他			34		14	
			一般財源			8,095		7,643	9,341
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						委託料4,381 需用費1,795 工事請負費881		委託料5,830 需用費2,056 工事請負費760	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			84		640	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・日常清掃・維持管理業務及び浄化槽保守点検業務の実施 ・破損・故障時の緊急修繕工事の実施。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			予定通り実施できたため。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由			本事業の実施により、公衆便所を衛生的かつ健全に保つことができ、市民の利便性を確保できている。					
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・経年劣化による修繕費の増加。										
R2年度の目標	・衛生的に維持管理し、公衆衛生の保全及び市民の利便性の向上に努める。			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)			・日常清掃・維持管理業務及び浄化槽保守点検業務の実施 ・破損・故障時の緊急修繕工事の実施。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組み改善策		・機器ごとの経年劣化の状態やその進み具合などの特徴を把握し、点検や取替による保守管理を行う。

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	南クリーンセンター維持管理担当	連絡先	971-8862				
	部等長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主任	尾家 慶行	担当者名	主任	高橋 貢	技師	宮本 佑司
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	南クリーンセンター維持管理担当	連絡先	971-8862				
	部等長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	主任	尾家 慶行	担当者名	主任	高橋 貢	技師	宮本 佑司

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	53133	南クリーンセンター運営管理事業						事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】						笑顔プログラム	個別プログラム	-			
政策	豊かな自然と共生する							重点プロジェクト	-			
施策	低炭素・循環型まちづくりの推進							主な取り組み	-			
主な取り組み	ごみの適正処理の推進						市長公約					
取り組みの柱	処理施設の更新・維持管理											
総合戦略	基本目標	-						取り組み	-			(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策	-										
	施策	-										
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し		重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し							
根拠法令, 条例, 個別計画等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例、松山市一般廃棄物処理基本計画											
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民等から排出されたごみを適正に処理する施設である南クリーンセンターの運営管理及び維持管理を行う。											
背景(どのような経緯で開始したか)	南クリーンセンターの供用開始による。											
対象・事業内容(誰に対して,何をするのか)	<対象> ・南クリーンセンターの各施設 <事業内容> ・施設の運転管理業務は「住原環境プラント株式会社西日本支店」に委託。 ・家庭等から排出される一般廃棄物のうち、本市の定める分別区分で「可燃ごみ」「粗大ごみ」に分類されるものを焼却・破砕処理する。 ・ごみを焼却する際の余熱を利用して発電し、施設内で使用するとともに、余剰電力を売却する。 ・ごみを焼却する際の余熱を利用した蒸気の一部を、隣接する「アクアバレット」のプールの水温管理等に利用する。											
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由		松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第22条						
始期・終期(年度)	平成	6		～	令和	4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費		清掃費		塵芥処理費		R元予算措置時期		当初
				項	目	目	目	H30年度	R元年度	R2年度		
現計予算額(A)(単位:千円)						1,122,871			1,119,696			1,100,052
決算額(B)(単位:千円)						1,073,142			1,052,094			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金					0			0			0
	県支出金					0			0			0
	市債					0			0			0
	その他					170,543			167,714			399,274
一般財源					902,599			884,380			700,778	
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算							委託料638,706 工事請負費255,721 需用費142,055			委託料693,439 工事請負費249,089 需用費153,671		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							流用による減あり					
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		49,729			67,602			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持 ・平成30年7月豪雨による災害廃棄物の受入れと適正処理										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		搬入されたごみを適正に処理することができた。 適正な施設の運営、維持ができた。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、一般廃棄物の適正な処理及び、適正な施設の運営、維持ができています。						
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない				
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・建物や設備機器等の経年劣化への対応										
R2年度の目標	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)		・一般廃棄物の適正処理に努め、施設の適正な運営、維持を行う。			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策		・経年劣化した建物や設備機器等の更新工事の実施。

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	西クリーンセンター維持管理担当	連絡先	953-1153
	部等長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	渡邊 真二	担当者名
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	西クリーンセンター維持管理担当	連絡先	953-1153
	部等長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	副主幹	渡邊 真二	担当者名

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	53133	西クリーンセンター運営管理事業	事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	豊かな自然と共生する			重点プロジェクト	-		
施策	低炭素・循環型まちづくりの推進		市民長約	主な取り組み	-		
主な取り組み	ごみの適正処理の推進						
取り組みの柱	処理施設の更新・維持管理						
総合戦略	基本目標	-		取組み	-		
	政策	-			(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	-	
	施策	-				-	
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し				
根拠法令, 条例, 個別計画等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例、松山市一般廃棄物処理基本計画						
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民等から排出されたごみを適正に処理する施設である西クリーンセンターの運営管理及び維持管理を行う。						
背景(どのような経緯で開始したか)	西クリーンセンターの供用開始による。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<<対象>> ・西クリーンセンターの各施設 <<事業内容>> ・施設の運転管理及び維持管理は、「松山環境テクノロジー株式会社」に委託(DBO方式)。 ・家庭等から排出される一般廃棄物のうち、本市の定める分別区分で「可燃ごみ」「粗大ごみ(可燃性)」に分類されるものを焼却・破砕し処理する。						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第22条			
始期・終期(年度)	平成 25年 ~ 令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	清掃費	目	塵芥処理費	R元予算措置時期		
									当初		
				H30年度				R元年度			
								R2年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				882,180				893,676			
決算額(B)(単位:千円)				878,247				878,167			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0				0			
	県支出金			0				0			
	市債			0				0			
	その他			532,156				563,383			
	一般財源			346,091				314,784			
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算				委託料862,243 報酬8,128 工事請負費5,029				委託料900,020 需用費381 職員手当324			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				流用による増あり							
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)				3,933			
								15,509			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	搬入されたごみを適正に処理することができた。 適正な施設の運営、維持ができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、一般廃棄物の適正な処理及び、適正な施設の運営、維持ができていたため。			
事業の公共性	必要性	1 2 3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・特になし					
R2年度の目標	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)	・一般廃棄物の適正処理に努め、施設の適正な運営、維持を行う。		・特になし 特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	横谷埋立センター-横谷廃棄物センター-維持管理係	連絡先	977-5235	
	部長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	副主幹	矢野 功二	担当者名	主任 田中 長彦
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	横谷埋立センター-横谷廃棄物センター-維持管理係	連絡先	977-5235	
	部長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	副主幹	矢野 功二	担当者名	主任 松尾 幸治 主任 柳原 信也

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	53133	横谷埋立センター運営管理事業			事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	豊かな自然と共生する					重点プロジェクト	-	
施策	低炭素・循環型まちづくりの推進					主な取り組み	-	
主な取り組み	ごみの適正処理の推進				市長公約			
取り組みの柱	処理施設の更新・維持管理							
総合戦略	基本目標	-			取組み	-		
	政策	-						
	施策	-						
総合計画の実施計画掲載有無(R元)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例、松山市一般廃棄物処理基本計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民等から排出されたごみを適正に処理する施設である横谷埋立センター等の運営管理及び維持管理を行う。							
背景(どのような経緯で開始したか)	横谷埋立センターの供用開始による。							
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<<対象>> ・横谷埋立センター及び横谷廃棄物センターの各施設 <<事業内容>> ・施設の運転管理業務は「水ingAM株式会社四国営業所」に委託。 ・家庭から排出される一般廃棄物のうち、本市の定める分別区分で「埋立ごみ」に分類されるものと、クリーンセンターから発生した焼却灰の最終処分。 ・埋立地から発生した浸出水の浄化処理。 ・浸出水に含まれる塩類を消毒剤(エノ次亜)としてリサイクル。							
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第22条			
始期・終期(年度)	平成	15	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	清掃費	目	塵芥処理費	R元予算措置時期	当初
				H30年度			R元年度		R2年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				560,544				536,943	539,760	
決算額(B)(単位:千円)				500,291				478,438		
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金					0		0	0	
	県支出金					0		0	0	
	市債					0		0	0	
	その他					11,745		4,808	685	
一般財源					488,546		473,630	539,075		
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						委託料282,764 需用費120,126 工事請負費67,746		委託料310,986 需用費155,335 工事請負費69,179		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						流用による減あり				
予算執行残額(単位:千円)	(A)-(B)			60,253			58,505			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持 ・平成30年7月豪雨による災害廃棄物の受入れと適正処理							
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	搬入された埋立ごみを適正に処理することができた。 適正な施設の運営、維持ができた。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、一般廃棄物の適正な処理及び、適正な施設の運営、維持ができています。					
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・特になし							
R2年度の目標	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)	・一般廃棄物の適正処理に努め、施設の適正な運営、維持を行う。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策	・特になし	

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	大西谷埋立センター維持管理担当	連絡先	977-0929
	部長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主査 宮浦 博義	担当者名	主任 西村 英治
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	大西谷埋立センター維持管理担当	連絡先	977-0929
	部長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	主査 宮浦 博義	担当者名	主任 西村 英治

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	53133	大西谷埋立センター運営管理事業				事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	2:委託	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔プログラム	個別プログラム	-			
政策	豊かな自然と共生する					重点プロジェクト	-			
施策	低炭素・循環型まちづくりの推進					主な取り組み	-			
主な取り組み	ごみの適正処理の推進				市長公約					
取り組みの柱	処理施設の更新・維持管理									
総合戦略	基本目標					取り組み				
	政策						(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無			
	施策									
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し		重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し						
根拠法令, 条例, 個別計画等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例、松山市一般廃棄物処理基本計画									
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民等から排出されたごみを適正に処理する施設である大西谷埋立センターの運営管理及び維持管理を行う。									
背景(どのような経緯で開始したか)	平成17年の合併により北条市から移管したことによる。									
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	<<対象>> 大西谷埋立センターの各施設 <<事業内容>> ・施設の運転管理業務は「株式会社日本管財環境サービス」に委託。 ・家庭等から排出される一般廃棄物のうち、本市の定める分別区分で「埋立ごみ」に分類されるものと、クリーンセンターで発生する焼却灰の最終処分。 ・埋立地から発生した浸出水の浄化処理。									
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由		松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第22条				
始期・終期(年度)	平成	5	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	衛生費	項	清掃費	目	塵芥処理費	R元予算措置時期				
									当初				
				H30年度				R元年度					
								R2年度					
現計予算額(A) (単位:千円)											46,014	74,118	63,382
決算額(B) (単位:千円)											50,193	67,408	
内訳 (単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0				0					
	県支出金			0				0					
	市債			0				0					
	その他			176				272					
一般財源			50,017				67,136						
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算				工事請負費35,128 委託料24,710 需用費6,584				工事請負費26,490 委託料28,595 需用費7,374					
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				流用による増あり									
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)				-4,179					
								6,710					

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持 ・平成30年7月豪雨による災害廃棄物の受入れと適正処理									
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など			搬入されたごみを適正に処理することができた。 適正な施設の運営、維持ができた。				
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、一般廃棄物の適正な処理及び、適正な施設の運営、維持ができていたため。					
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・施設の経年劣化への対応									
R2年度の目標	・一般廃棄物の適正処理 ・適正な施設の運営、維持管理 ・経年劣化した水処理設備機器の点検・更新			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)			・一般廃棄物の適正処理に努め、施設の適正な運営、維持を行う。 特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策		・水処理設備機器の老朽化に伴う更新工事の実施	

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	中島リサイクルセンター維持管理担当	連絡先	997-5911	
	部長名	藤本 則彦	課等長名	二宮 仁志	リーダー名	主査	渡部 馨	担当者名	主任 井上 慶
令和元年度	部局等名	環境部	課等名	清掃施設課	担当グループ名	中島リサイクルセンター維持管理担当	連絡先	997-5911	
	部長名	藤本 則彦	課等長名	岸 洋三	リーダー名	主査	渡部 馨	担当者名	主任 井上 慶

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	53133	中島リサイクルセンター運営管理事業				事業性質	1-4:自治事務(義務規定あり)	事業区分	1:直営	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔プログラム	個別プログラム	-			
政策	豊かな自然と共生する					重点プロジェクト	-			
施策	低炭素・循環型まちづくりの推進					主な取り組み	-			
主な取り組み	ごみの適正処理の推進				市長公約					
取り組みの柱	処理施設の更新・維持管理									
総合戦略	基本目標	-				取り組み	-			(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策	-					-			
	施策	-					-			
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し		重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し						
根拠法令, 条例, 個別計画等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例、松山市一般廃棄物処理基本計画									
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民等から排出されたごみの再資源化等を行う施設である、中島リサイクルセンターの運営管理及び施設の維持管理を行う。									
背景(どのような経緯で開始したか)	平成17年の合併により、中島町から移管したことによる。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<事業内容> ・中島地域の家庭等から発生した「缶・ビン類」「プラ・ペット類」「紙類」等の一般廃棄物を受入れ、選別・圧縮・梱包等により再資源化を図る。 ・中島地域の家庭等から発生した「可燃ごみ」「粗大ごみ」「埋立ごみ」「水銀ごみ」等を一時保管する。									
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		松山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第22条				
始期・終期(年度)	平成	16	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	H30年度		R元年度		R2年度	
				衛生費	項	清掃費	目	塵芥処理費	R元予算措置時期
現計予算額(A) (単位:千円)						39,334		41,089	16,940
決算額(B) (単位:千円)						35,455		39,856	
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0		0		0	0
	県支出金			0		0		0	0
	市債			0		0		0	0
	その他			4,612		4,547		2,577	
	一般財源			30,843		30,843		35,309	14,363
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						報酬12,903 委託料7,608 賃金7,467		委託料9,580 工事請負費3,533 需用費2,922	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			3,879		1,233	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・一般廃棄物の適正処理(再資源化) ・適正な施設の運営、維持								
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		搬入された資源ごみ等の適正な保管及び搬出処理をすることができた。適正な施設の運営、維持ができた。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、適正な資源の有効活用(再資源化)及び、施設の運営、維持ができていたため。				
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・特になし								
R2年度の目標	・一般廃棄物の適正処理(再資源化) ・適正な施設の運営、維持管理		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)		・一般廃棄物の適正処理に努め、施設の適正な運営、維持を行う。(紙類、金属類、プラ類の再資源化など)		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組み改善策		・特になし